

学校教育全体をキャリア教育と とらえ、学力と心の両面から 社会人基礎力を育成する

▶ 二階堂高校(奈良・県立)

構成／平林夏生 文／永井ミカ

総合学科1年次の必修科目「産業社会と人間」の大きなテーマは、「10年後の自分はどうかありたいか」である。学期ごとには「しこう」をキーワードに、1学期「未来を思考する」、2学期「未来を指向・志向する」、3学期「未来へ試行する」というテーマを定めている。自己理解から始まり、職業や地域社会について学びながら、自分の進路を見据え、2年次からの系列選択や科目選択ができることを目指す。進路調べやインターンシップなど各学習の中で、学習中の記録、学習後の振り返り、発表を繰り返す。学習を深めるため、通常2単位のところを3単位とし、2単位は理論編、1単位は実践編とした。

オリジナルのツールを使って 記録や振り返りを繰り返し練習

総合学科1年次の必修科目「産業社会と人間」の大きなテーマは、「10年後の自分はどうかありたいか」である。学期ごとには「しこう」をキーワードに、1学期「未来を思考する」、2学期「未来を指向・志向する」、3学期「未来へ試行する」というテーマを定めている。自己理解から始まり、職業や地域社会について学びながら、自分の進路を見据え、2年次からの系列選択や科目選択ができることを目指す。進路調べやインターンシップなど各学習の中で、学習中の記録、学習後の振り返り、発表を繰り返す。学習を深めるため、通常2単位のところを3単位とし、2単位は理論編、1単位は実践編とした。

進路指導の課題とテーマ

2015年に普通科から総合学科へ改編した奈良県立二階堂高校。普通科時代の2001年度から総合的な学習の時間を活用して3年間を通したキャリア教育を実践してきた。2009年には学力向上に向けてオリジナル教材「Brush Up Time」と「まがたまノート」(P.40参照)を導入し、2011年度にキャリア教育優良学校文部科学大臣表彰を受賞している。

その後、キャリア教育のさらなる推進と充実のため、総合学科への改編に手を挙げる。文部科学省の掲げる総合学科の理念に共感し、理念に沿った新しい二階堂高校を作ることにした。そのための職員全員参加の会議を、改編2年前から月2回のペースで行い、学科名、系列名、科目をブレインストーミング法やKJ法などで整理。自分自身の生き方・在り方を考えながら人生設計を行う学科として「キャリアデザイン科」という名称が決まった。また、同校の長所として生徒たちが素直、教員のまとまりがある、短所として生徒の部活動加入率の低さや家庭学習時間が少ないこと、積極性に欠けることなどが挙げられた。

改編とともに進路指導部もキャリア教育部に名称変更。学校の教育活動全体でキャリア教育を行うため、各分掌や教科、学年をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている。改編4年目、同校を第1希望として選ぶ中学生が増え、生徒の自尊心や愛校心が育っている実感があるという。

総合学科のグランドデザイン

ダウンロード可



繰り返しの学習の象徴として、全員が同じ病院で2回にわたるインターンシップを行う。1回目は福祉や看護に関する体験、2回目は病院内のさまざまな仕事

(例えば事務、栄養士など)から興味があるものを選ぶ。1回目で気づいたことを記録し、振り返り、2回目に向けて心がけたいことを事前に洗い出してから挑む。

総合学科へ改編するときは、普通科の学びを一度完全にリセットして教育目標から見直した。それぞれの教育活動を一から総合学科の理念に照らし実施を判断。この「総合学科のグランドデザイン」は毎年1月から全教員で作成し、3月には教員に浸透させ、4月から一斉に走り出すというサイクルができています。

●進路状況(2018年3月実績)

大学進学27人、短大進学13人、
専攻進学49人、就職67人、その他23人

まだ総合学科の第1期生が出たばかりで、進路実績に大きな変化はない。入学生の学力がやや上がってきていること、新入試制度への対応で、今後は進学割合が増えることが予想される。

●School Data

1977年創立／キャリアデザイン科(ビジネスコミュニケーション系列・子ども暮らし系列・人間文化と芸術系列・自然科学と情報系列)／生徒数560人(男子204人・女子356人)

ツール1 「Brush Up Time」のテキスト

ダウンロード可

BUT学びの地図(学びの目次)

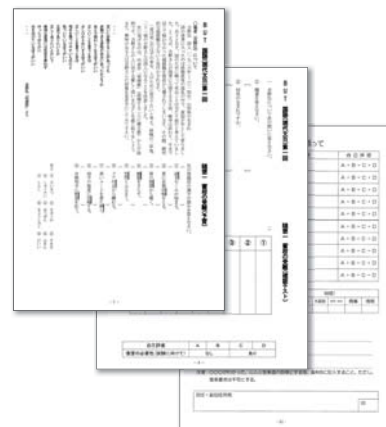
教科名 国語	科目名 現代文B
-----------	-------------

2中学校学習指導要領上の既習内容
中学校3年生までに学習する漢字
文法 文の成分(接続語)

3BUT演習の内容
筆者(吉野弘)について
1学期学習内容の漢字
擬声語・擬態語
接続語

※ 1の内容を支えるための、
2の最もファンタジカルなもの

1第1学期の学習内容
随想「家様の受難」
場面状況を捉え、それぞれの人物の動きをもとに、人間の優しきについて考える。
評論「コンコルドの語り」
随想の表現について理解し、適切に使うことができる。
小説「水かまきり」
小説における擬声語などの表現方法について理解を深める。



予習問題、確認問題といったワークの部分の工夫もさることながら、学習の位置づけがわかりやすくとめられた「学びの地図」が特徴。あるページの問題が、今学期の教科学習のどの分の予習になっているのか、そして、それは中学で学んだどんなことと結びついているのかがひと目でわかるようになっている。

社会人として必要なPDCAを意識した学びだという。

「産業社会と人間」のオリジナルノートの記述スペースは、かなりのボリュームがある。「書くことが苦手な生徒にも必ず書かせています。学習しながらメモをとり、最後には自分の感想も入れる。社会人基礎力をつけるために最初は半ば強制的に訓練しなければならぬ部分で、いざれ習慣化することを目指して設計しました」と教務部長の尾藤直樹先生。こうして1年間で学んだことを踏まえ、最終的にライフプランを作成する。

学力向上については学習の習慣化・自立化を目指し、朝10分の「Brush Up Time」という学習時間を設け、1週間で50分、1単位時間の科目にした。5教科を中心に予習問題と確認問題を1セットで作成。これが1学期に1冊のテキストとなっており、生徒は自分の苦手なところを意識し、自分で学習するページを選ぶ。2週間ごとに生徒が振り返って記入する欄もあり、担任が所見を記入してフィードバック。学期末には「Brush Up Time」としての期末考査もある。3年生のテキストでは社会人マナーや面接などの項目も入れ実用性にも配慮。なお、この冊子を教員も活用しており、「○○の単元の予習はやっておくように」などと指示することで、各教科の授業の説明の時間を短縮できるという。

そして、記録や振り返りの習慣化のためのもう一つのツールが、普通科時代から活用している「まがたまノート」。生徒が

ツール2 「まがたまノート」

ダウンロード可

3年間の活動記録をつけよう。

このページには、3年間の活動を記録していきます。ただし、記録と言っても「いつ、何をしたのか」を記録するだけのものではありません。「どのような目的で」「どのように学んだか」を大切に記録していきます。例えば、サッカー部の県大会でベスト4に入ったこと。記録としてはメンバー全員が県大会ベスト4という結果を残したことになります。しかし、チームのメンバーとしてそれぞれが取り組んできたこと、また、果たした役割は違うはずです。自分だけの思いをもって、宿題を。どのように取り組んだか、あとで振り返ることができるようメモしておきましょう。3年後、自分の高校生活での達成がいっぱいになった記録になることを楽しみに取り組んでみてください。

次に挙げるような項目について記録していきましょう。

- 1 探究活動(産業社会と人間・課題研究など)
- 2 生徒会・委員会・クラス係
- 3 学校行事
- 4 部活動
- 5 学校以外の活動
- 6 留学・海外体験
- 7 表彰・顕彰
- 8 資格・検定

記録する内容

自分
 取り組んだこと
 何のために取り組んだことか(目的)

活動の記録

5月 6日

取り組んだこと 地域の清掃活動
目的(なんのために取り組むことにしたのか、きっかけ)
おばあちゃんが日曜の朝から掃除の集まりがあると聞いたこと。通学路の溝に落ちていた空き缶が気になって拾ったこと。
具体的な取組内容と結果
コミュニティセンターに集合。各自掃除場所を分担し作業した。2時間でゴミ袋が90袋くらいいっぱいになった。終わったあとはみんなでおやつを食べた。
振り返り、今後活かせること
清潔さをしてくれるおじさんがいてとてもきれいになった。近所の人と違って、意外に僕たちのことを覚えてくれていることを知った。課題研究の話をしたら、教えてくれるらしいのでまた行くことになった。手帳以外に活用した物など
おばあちゃんの人脈?

6月 23日

取り組んだこと 漢字検定3級
目的(なんのために取り組むことにしたのか、きっかけ)
授業で出されたとき答えられなかったから。接客の仕事をしたけど、漢字が書けないとかわつかわいと思ったから。
具体的な取組内容と結果
国語の授業で使う問題集を毎日2ページやることにした。過去問も先生にもらって、やってみた。
振り返り、今後活かせること
自己採点をしたら合格ぎりぎりだった。問題集をやらない日もあった。とってつけたけどやばい。次はもっと計画を立ててやる!
以外に活用した物など

3年間の毎日の活動を記録したり振り返った内容を書くポートフォリオとなる。同校が大切にしている「記録する、振り返る、話す」の核ともなるノートで面談などでも活用されている。このノートの効果について、「メタ認知能力の育成に非常に役立ちます。自分がどれだけ成長できたかを理解しやすいので自己肯定感もアップ。また、単純にことあるごとにメモをとる生徒が増えました」と金子博和

教頭。以上3つの仕組みで、同校の生徒は書いたり振り返ったりすることが自然に身に付いているようだ。

**地域社会との連携で
自己有用感を育成する**

同校の教育活動のグランドデザインの中心には学力向上と並んで自己有用感の育成・人格の形成という文言があり、地域連携が後者の中心部分を担う。「外に

3年間で1冊を使う。3部構成になっており、1つ目はスケジュール帳的な月別カレンダー。2つ目は日々の記録を書き込む日記帳的なもので見開きで1週間。市販の「3年日記」のように、3年分の〇月〇日が一度に見られるようになっており自己の成長を感じやすい。3つ目が活動の記録と振り返りを書く部分。部活動や資格試験、地域活動などについて記述するようになっている。

出て地域の一員として認められることで、自己肯定感をもてる生徒が増えたと思います。二階堂を変えるには地域の力が「必要です」と岡本雅至校長も言う。

1年次の「産業社会と人間」が主に自己を見つめるプログラムだとすると、積極的に外に出て地域とのつながりを深め広げるのが2年次以降。「産業社会と人間」を引き継ぐ形で「総合的な学習の時間」を使いフィールドワークを行う。

課題研究として地元の天理市と連携した学習は1〜3年次で継続的に行うが、1年次は校内のポスターセッション、2年次以降は積極的に校外に出て天理



オープンスクール。希望する生徒がスタッフとして参加。生徒会活動でも部活動でもない活動として希望者は多い。卒業生が挨拶やマナーなどを指導してくれる。当日は生徒による部活動の案内もある。



地元企業と連携して引き手をデザイン。商店街で接客・販売する。推薦などで進路が早く決まった生徒に向けて実施した企画だが、まだ決まっていない生徒の参加もあるという。



市について学び、5クラスがそれぞれ天理市の各部署に向けて活性化のための提言を行う。駅前広場などでイベント「二階堂フェスタ」を実施するなど成果発表も広く外に向けて行い、2月には学習の総まとめとして市民会館で地域の方々を招いて課題研究発表会を行う。

3年次では、早くに進路決定した生徒の取り組みとして、地元企業と連携し地元伝統産業の一つである引き手（襖などの取っ手部分）の商品開発を行い自分たちで販売まで行っている。奈良という土地柄、外国人向けの販売も意識して英語のチラシも作成。デザイン系を志望

する生徒は商品デザイン、経営を志望する生徒は販売戦略を立てるというように、将来の学びにつなげることもできる。

低学年では全員参加のプログラムが多いが、学年が上がるにつれこうした希望者向けのプログラムが増える。「全部進路につながる」という前提でプログラムを考えています。生徒にはどんなことも将来の役に立つと思っただけ参加してもらえば」とキャリア教育部部長の米倉信岳先生は言う。

そして、同校のキャリア教育部の大きな役割の一つとして広報活動があり、それも生徒の学びの場としている。オープンスクールでは希望する生徒がスタッフとして活躍。案内から始まり、パネルディスカッションや部活動紹介などを在校生が中心となつて行う。今年度の新入生で中学生時代にオープンスクールに来校したという生徒は約半数。数年前に比べ飛躍的に伸びた。「在校生がしっかり活躍しているのを見て、自分がよくなれる学校、安心して学べる学校と思ってもらえているのでは」と金子教頭は語る。

すべての教育活動が進路を考え、選択し、実現していくことにつながるという考えで設計・実行している同校。「現在の取り組みも毎年振り返りブラッシュアップ。常に新しいことにチャレンジし、その時代その時代に即した社会人基礎力を身に付けた人材を送り出していく」（岡本校長）考えた。

今後の展望

基本に立ち返って
ミスマッチを防ぐ進路指導が
できているか確認したい

二階堂高校が総合学科として走り出して4年目。同校を第1志望とする生徒が増え、学びの姿勢も変化。学校が活性化しているという。

そしてこれらの学びの先に進路があるというのが総合学科の在り方なので、今後高校での学びが卒業後に生かされているか、卒業生の進路はミスマッチではなかったかなどをしっかりと検証していく予定だ。「例えば、改編前に決めた4つの系列と進路の実情が本当に合っているか精査する時期に来ている」とキャリアデザイン科科長の浦川幹雄先生。これからは卒業生の追跡調査などにも力を入れ、また大学入試制度改革や新学習指導要領なども見据えながら、ミスマッチなく進路実現できる学校づくりを進めていきたいそうだ。



校長 岡本雅至先生(前列左)
教頭 金子博和先生(前列右)
キャリア教育部部長 米倉信岳先生(後列左)
キャリアデザイン科科长 浦川幹雄先生(後列中)
教務部部长 尾藤直樹先生(後列右)